

トータルケアNEWS

No.55 2014. 3. 20

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701
URL <http://www.akitakenshakyo.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyo.or.jp

CONTENTS

- 町内会・自治会（区）
福祉実践セミナーを開催・・・1～3
- コミュニティソーシャルワーカーが
主人公のドラマが始まります・・・ 4

秋田県社会福祉協議会では、少子高齢化や過疎化の進行とともに人間関係の希薄化や日常生活における生活福祉課題の多様化・潜在化が進む中で、平成22年度から「町内会・自治会（区）福祉推進事業」を実施、市町村社会福祉協議会及び町内会・自治会（区）を指定（2カ年）し、住民同士がお互いの困りごとに気づき、ともに助け合う地域コミュニティの育成に取り組んできました。

3月5日（水）、6日（木）、7日（金）の3日間、県内3カ所で町内会・自治会（区）福祉実践セミナー（以下、「セミナー」という）を開催し、当該事業に取り組む指定社会福祉協議会及び指定町内会・自治会（区）をはじめ集落維持や地域づくりに積極的に取り組んでいる方々の実践報告や全国各地で小地域福祉活動の取り組み支援を行っているNPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長の池田昌弘氏からの講話を通して、住民に最も身近な町内会・自治会（区）単位での住民相互の助け合い、支えあいの仕組みづくりを学びました。

今回のトータルケアニュースでは、セミナーの様子について紹介します。



講師を務めていただいた池田昌弘氏

地域で支え合う仕組みづくりを今のうちから作る

今回のセミナーは、3月5日（水）に秋田市、6日（木）大館市、7日（金）横手市の3会場で開催し、民生児童委員や自治会長など3地区合わせて172人の方が参加しました。

セミナーでは、まず、NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター理事長の池田昌弘氏から「町内会・自治会における支え合いの意味と魅力」と題して講話をしていただきました。

池田氏からは、今後我が国では急速な人口減少と高齢化が同時進行し一人暮らし高齢者や認知症高齢者も増加すること、36年後の2050年には65歳以上の高齢者人口に対して20歳から64歳人口が1.2倍となり、1人の若者が1人の高齢者を支える「肩車型」の人口構成になるとし、今のうちから町内・自治会区レベルや小学校区など小地域単位で働く世代や若い世代が高齢者を支える仕組みを作っていくことが大事であることを強調していました。

また、東京都の例として特に男性の孤独死が増えていることや国の統計で男性の65歳以上の単身者の会話頻度が2週間に1回以下という割合が約16%にも上るといふ調査結果を踏まえ、隣近所の声かけ見守りの必要性や、気軽に参加できるふれあいサロンのような居場所づくりの大切さを訴えました。

さらに、自宅に居ながら利用できる介護保険サービスは充実してきたが、介護保険サービスを利用したとたんに近隣関係が壊れてしまう傾向にある、大事なのは制度を利用しながら近所づきあいや趣味仲間、役割の発揮などその人らしく地域で暮らし続けられるような環境を整える必要性についても触れました。

「寂しさ」に寄り添うことが求められている

続いて、池田氏が講話で取り上げた全国の事例をいくつか紹介します。

初めに、滋賀県東近江市永源寺地域で活動している生活支援サポーター「絆」の取り組みです。

東近江市永源寺地域は、平成の合併前の旧永源寺町がエリアとなっており、人口約6千人、世帯数が約1,900世帯、高齢化率約31%の地域です。

グループの立ち上げは、東近江市社会福祉協議会が開いた「生活支援サポーター」養成講座を受講した地域住民が、自治体の制度やサービスだけでは支えきれない問題に気づくことや住民が協力して取り組んでいく必要性を感じたことがきっかけということです。

「絆」では、話し相手やゴミ出し、掃除や季節の模様替え、子どもの見守り、買い物支援など日常のちょっとしたお手伝いなどを行い、サービスの利用者から1時間100円（1時間を超えると30分ごとに50円）を徴収しています。

2つ目の事例は、熊本県山都町下矢部西部地区社会福祉協議会の取り組みです。

下矢部西部地区は人口約600人、世帯数約200世帯、高齢化率約41%の地域です。

この地区では、廃校を県や国の補助金を使って宿泊体験ができる施設に改修し、

高齢者の宿泊体験会を開催しています。

宿泊体験は、地区の各世帯から1人ずつ出てもらい、1回あたり12人が参加して1泊2食付で行われており、各回とも体験には一人暮らし高齢者を必ず1~2人参加させ、生活上の悩み事を聞く機会にもなっているということです。

宿泊体験施設の運営は西部地区社会福祉協議会が行い、「小規模多機能ホーム“絆”」という名称がつけられ、今後は地域住民が気軽に集える地域の拠点として活用していくとともに、生活必需品が購入できる「地域コンビニ」を設置することも検討しているそうです。

その他にも、地域住民が主体となり空き家を改修しデイサービスを行っている長野県駒ヶ根市の「NPO法人 大曾倉ふれんど」などの先進的な事例が報告されました。

県内の先進的な取り組みとしては、町内会や民生児童委員、福祉協力員と連携しながら町内会ごとにサロンを開催したり住民支え合いマップ作りに取り組んでいる秋田市東地区社会福祉協議会、地域住民が主体的に買い物バスの運行や雪かき支援などを行っている五城目町浅見内地区の「ちょっとした困りごとお助け隊」、社会福祉協議会と協働でサロンをはじめとした「つながり活動」を実践している由利本荘市矢島地区中屋敷町内会、週3回町内会館



実践発表の様子（中央地区会場から）

を利用しサロンを開催している北秋田市下新町自治会、地区公民館を拠点に住民の交流や農産物の生産・販売を行っている三種町深浜自治会、農作物の通信販売やイベントの開催を通して地域の情報を発信しながら高齢者の特技を生かした地域づくりに取り組んでいる大館市山田集落会、月2回地域情報「愛宕だより」を発行し住民全員が主役の地域コミュニティづくりを進めている湯沢市横堀愛宕町内会、住民主体による共助組織を立ち上げ雪下ろしや買い物支援などに取り組んでいるNPO法人県南NPOセンター、地域住民が主体となり空き店舗を活用した交流サロンを開設している仙北市西木松葉地区の6つの地域・団体から発表していただきました。

講師の池田氏も触れていましたが、平成25年7月時点の高齢化率が31.4%の本県の姿は17年後の日本の姿であり、県内各地の実践が今後の我が国地域づくり参考となるということでした。県社協としても引き続き誰もが安心して暮らせる支え合いの仕組みづくりを市町村社協と協働で進めていきたいと考えています。

コミュニティソーシャルワーカーの活動がNHK連続ドラマに登場！！

NHK総合テレビで4月から放送される連続ドラマに、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が主人公として登場します！

コミュニティソーシャルワーク実践の先進地である、豊中市と豊中市社会福祉協議会が取材に協力。

女優の深田恭子さんが主人公を務めるこのドラマは、東京の下町を舞台にゴミ屋敷やひきこもり、ホームレスなど社会的孤立の淵にある人たちに手を差し伸べ“孤独”に立ち向かう社会福祉協議会CSWの姿を描いています。

【タイトル】ドラマ10『サイレント・プア』

【放送予定】2014年4月8日（火）スタート

NHK総合・午後10時～10時48分（連続9回）

【出演】深田恭子 北村有起哉 桜庭ななみ 坂井真紀 山口紗弥加
渡辺大知 香川京子 市毛良枝 ほか

※豊中市・豊中市社会福祉協議会 取材協力